

景観まちづくり

市民ワークショップ通信

第 5 号
編集・発行：伊勢原市
都市部都市総務課
平成23年11月11日

平成23年度 景観市民ワークショップ 第2回地区別ワークショップ開催！！

大山地区まち歩き

平成二十三年度の景観市民ワークショップ第2回地区別ワークショップ「大山地区まち歩き」が八月二十七日（土）に開催されました。

前日からの雨が残り、当日は時折霧雨が降る中、ワークショップのメンバーの他、新たなメンバーも加わって、少し視点を変えたまち歩きに、みなさんの期待も大きかったようです。



当日の行程は青木館前、あたご滝、旧参道、加寿美橋、三の鳥居と歩いたあと、大山公民館にて、意見交換などを行い、約四時間半のまち歩きを無事終えることができました。今回のまち歩きは、「おくだり」という行事を通して、景観まちづくりについて考える、まち歩きになりました。（第二面に大山グループ作成の地図を掲載しています。）



旅館高尾に置かれている「納太刀」をかたどった石像

▲意見交換▼

まち歩き終了後、参加者の皆さんから今回のまち歩きについて、御意見を伺いました。

◎伊勢原に長年住んでいても、今回見た「おくだり」という行事はよく知りませんでした。約百メートルもの行列を見て、とても感動しました。

◎もっと多くの方々に、知ってもらい、見てもらいたい、伊勢原市の貴重な財産だと思います。

◎子ども達にもこういった行事を伝え、継承していつてもらいたい。それには、やはり地域の力が重要だと感じました。

◎大山地区の歴史を強く感じました。

◎伊勢原市は昔から大山に守られてきたのだと感じました。また、大山に続く道には大山にちなんだ様々なよいポイントがある。景観まちづくりを通じて、そういった部分をもっとアピールしていったらよいのではないかと思います。

◎とても厳かな行事で、あまり人に知らせず、そつとしておきたいという思いすら感じました。地域を良く理解することで、見え方が随分と変わってくるように思います。地域のことをよく知り、地域の人と一体となって、よりよい景観まちづくりを考えていけたら良いのではないかと思います。

納太刀

これは招福除災を祈願するもので、かつて源頼朝が天下泰平、武運長久を祈願し、太刀を奉納したのが始まりとされています。これが庶民に広がり、木製の太刀に願文などを記し、阿夫利神社や大山寺で祈願し、一年の守護として、神棚等に奉斎したとのこと。また、今年、八月に「納太刀」を大山の伝統行事の体験という形で市民の方々も参加し、話題を呼びました。

秋季例大祭

毎年八月二十七日から二十九日の三日間大山六町の氏子崇敬者達が感謝の心を込めて厳かに執り行われます。二十七日には遷幸祭（せんこうさい）通称「おくだり」が行われ、阿夫利神社の神様が社務局に降りてこられます。

「おくだり」は氏子約二百名の行列で、その役割により、色とりどりの衣装をまとって、練り歩きます。その間町内では倭舞・巫女舞が奉納されるなど、様々な祭典が催されます。

二十九日には還幸祭（かんこうさい）通称「おのぼり」が行われます。行列が山を登り、神様が下社にお戻りいただいて、お祭りが終了します。（天山阿夫利神社ホームページより）



おくだり(男坂)

(平成22年開催時撮影)

おくだり(行列風景)

(平成22年開催時撮影)



編集後記

今回のまち歩きを通じて、地域の伝統を守る気持ちや、歴史や文化、それを伝えていく人々も、景観づくりには欠かせないものであると感じるとともに、改めて、大山地区の歴史と文化の深さを感じた一日でした。



